

インドデスクレポート（2025年6月）

インド概況

マルチスズキとジェットロ、日印スタートアップ企業のビジネスチャンス促進に向け協力

マルチ・スズキ・インドはジェットロと覚書を締結し、戦略的提携を結んだ。この覚書は、同社の竹内寿志取締役社長出席のもと、同社のタパン・サワー担当執行役員とジェットロ・インド総代表の鈴木隆史氏により調印された。

この締結により、同社とジェットロは協力して、インドのスタートアップ企業が日本のスタートアップやイノベーションのエコシステムにアクセスできるようにし、同様に、日本のスタートアップ企業もインドのイノベーションのエコシステムを利用できるよう支援する。

同社はインドでイノベーション・プログラムを提供しており、そのうち4つの主要プログラム（アクセラレーター、インキュベーション、モビリティ・チャレンジ、ナーチャー）に選ばれたスタートアップ企業は、この二国間のイニシアティブに参加する資格を得る。同様に、日本のスタートアップ企業は、ジェットロが支援するプログラムを通じて、インドのイノベーション・プログラムが紹介される。

覚書締結の調印式に出席した鈴木総代表は、同社が日印協力のモデルであるとし、この締結は「イノベーションと経済成長を促進し、インドと日本の深い結びつきをさらに強化することに資する」と挨拶した。

【デスク解説】

マルチスズキとジェットロの覚書締結は、インドと日本、二国間のスタートアップのコラボレーションを促進し、国境を越えたイノベーションを実現する重要な一歩。マルチスズキのイノベーション・プラットフォームとジェットロのエコシステム・アクセスを活用することで、スタートアップ企業がグローバルに規模拡大するための体系的な道筋となる。同時に、この提携は日印関係を強化し、将来の経済成長を促進する上でも重要な役割を果たすことが見込まれる。

ニデックの新しい製造施設、通称「オーチャード・ハブ」がカルナータカ州に落成

ニデックは、カルナータカ州フプリ・ダルワードのコツール・ベルール工業団地で最新鋭の製造施設オーチャード・ハブの落成式を行った。

落成式には、同州政府から、大規模・中規模産業およびインフラ開発担当大臣の M. B. パティル氏が出席した。また、ニデックモーション&エナジー事業本部長マイケル・ブリッグス氏、在ベンガルール日本国総領事中根勉氏、在ベンガルールフランス共和国総領事マーク・ラミー氏ら国際的な要人も出席した。彼らの参加は、この施設の地域的重要性と国際的意義を強調するものであった。

5,500万USドルが投じられたオーチャード・ハブ設立は、インドでの足跡を拡大、強化しているニデックの戦略における大きな節目だ。インドの産業基盤を強化するとともに、「モータを中心とした製品を通じて、地球環境の保全をはじめとする様々な課題を解決する」というニデックのミッションを反映している。

同施設は2028年までにカーボンニュートラルにするという目標を掲げており、太陽光発電システム、社内マイクログリッドシステム、バッテリーエネルギー貯蔵システム（BESS）を利用することで、目標達成を目指す。

【デスク解説】

ニデックがカルナータカ州のオーチャード・ハブに投資することは、インドのグリーンテックと製造業への強いコミットメントを示す。2028年までにカーボンニュートラルを目指すことで、この施設は持続可能な産業開発の新たなベンチマークとなるであろう。この動きは、同社のインドにおけるプレゼンスを高めるだけでなく、世界のグリーンエネルギー転換における重要なプレーヤーとしてのインドの地位を強化するものでもある。

東洋電装、ミンダコーポレーションと先進的な自動車用スイッチ製造の合併会社を設立

東洋電装は、インドの自動車部品メーカー大手のスパーク・ミンダ・グループの旗艦企業であるミンダコーポレーションと合併会社「Spark Minda Toyodenso India Private Limited」を設立することを発表した。この提携は、インド市場に合わせた先進的な自動車用（二輪車や三輪車を含む）スイッチの設計、開発、製造、販売を目的としており、包括的なソリューションを提供する。

東洋電装とミンダコーポレーションの出資比率は、40:60。ミンダコーポレーションが新たに設立される合併企業の株式の過半数を保有する。

新会社はすでにインド国内の顧客から受注を獲得している。ウッタル・プラデーシュ州のノイダに工場が建設され、2026年度下半期までに操業を開始する予定だ。

この協業を通じて、東洋電装は高度な技術とエンジニアリングの専門知識を提供し、ミンダコーポレーションは現地生産に関する豊富な知識と強固なサプライチェーンエコシステムを提供する。

【デスク解説】

東洋電装とミンダの合併事業は、進化するインド市場において、先進的な自動車用スイッチ技術をローカライズするための戦略的提携を意味する。東洋電装の技術力とミンダの製造力により、高品質で将来性のある部品を自動車業界全体に提供する。ノイダに計画されている施設は、長期的なコミットメントを明確にし、カーエレクトロニクス分野における Make in India の推進を加速させるものとなるだろう。

以上